

すかんぽ とやま

第22号

今号の内容

★「子どもの育ちを支える 子育て支援フォーラム」

—すべての子どもの
権利と育ちを保障していく
社会の実現を目指して—

- 「保育の出前」実演
富山市立保育所等保育研究会
- 記念講演「まなざしが保育を高める」
保育 SoW ラボ代表
非営利団体コドモノミカタ代表理事
井桁 容子



「ふわっふわ〜」



「ひみつひみつ」



「どんなにいい？」



令和6年度「子どもの育ちを支える子育て支援フォーラム」

—すべての子どもの権利と育ちを保障していく社会の実現を目指して—

令和7年1月11日に、「子どもの育ちを支える子育て支援フォーラム」が開催されました。わが国では人口減少が進み、核家族化・世帯員数の減少に加え家族相互に助け合う力が低下し、地域住民同士の交流の機会も減り、家庭と地域のつながりが弱くなっています。保護者の子育てへの不安や悩み、家族や地域からの孤立が、児童虐待をはじめ、子どもの命を脅かす深刻な課題につながっているともされています。

このような状況の中で、未来を担う子ども一人一人の育ちを保障し、子育て家庭とともに、地域社会全体で支えていくような「子育て文化」を育むことが重要となっていることから、富山県保育連絡協議会では、平成9年から関係機関・団体と協働のうえ実施している子育て支援「保育の出前」活動実践を通し、子育ての楽しさや喜びを地域社会へ広めるなど、子育てしやすい地域づくりを進めているところです。

今年度のフォーラムは、関係機関等相互の「つながり」を一層深め、地域が中心となって子育て支援を充実させるための仕組みを考えることを目的に開催され、「保育の出前」の実演と記念講演が行われました。

「保育の出前」実演・実践発表

富山市立保育所等保育研究会
テーマ

『すくすく のびのび げんきいっぱい
～子育てって大変…でも子どもってかわいいよね！
一緒に子育て楽しもう!!～』

富山市の公立保育施設に通う子ども達の普段の遊びや活動などの様子を写真や動画として記録し、一つの動画を作成しました。保育施設には、様々な経験をする子どもの姿、そして成長していく場面がたくさんあります。そんな子ども達の“実際の姿”を見ていただくことで、様々な年代のたくさんの方に『子どもってかわいい、地域の宝』と感じ、子ども達のすばらしさを再確認していただきたいと思います。

今回の『保育の出前』の動画は、保護者や高校生、地域の方にも見ていただく機会を作りました。

～動画を視聴した方からはこんな声が聞かれました～



子育て支援事業 保育の出前

子育て支援事業 「保育の出前」とは？

保育士等が子育て支援事業の一環として地域に出向き、専門知識・技術を活かした遊びの実演を行い、子どもとの関わり方や子育ての楽しさ・喜びを伝えるボランティア活動（無償）です。

子育ての楽しさを出前しま～す♪ 子育ては楽しく喜びと感動いっぱいのいとなみです！

具体的な保育の実演内容とは？

- 保育士等2～3人で行う20分程度の実演で、内容は次のとおりです。
- ①家庭にある材料を使って手作り遊具を作り、家庭で子どもと一緒に楽しめる遊びの紹介
 - ②運動遊び、手遊びなどを通して、サークルや家庭で笑いや会話が広がるような遊びの紹介
 - ③子どものしぐさ、遊びを通して発達のポイントや、子どもが求めている関わり方など、子ども理解につながる例の紹介

地域の子育てを 応援します！

出前先は・・・
公民館、学校、児童館、
企業など

～『保育の出前』（動画）の実践を通して～

『子ども達の魅力』『生きる力』を感じ取っていただけたと思います。これからも沢山の子ども達や保護者の方と出会い、地域の中で開かれた保育施設となり、子育て家庭と地域をつなぎ、それが子育て世代を地域全体で支える輪へと広がっていくよう努めていきたいと思っています。



「保育の出前」の実演と実践発表の感想

～アンケートより～

- あらためて子どもってかわいいなと感じ、保育を楽しんでやろうと思えた。
- 日々の保育所での過ごし方を様々な世代の方に視聴してもらうことで、安心して預けたいと思ってもらえるきっかけになると思った。

記念講演

まなざしが保育を高める

～子ども・保護者・保育者の共育ちを目指して～

保育SOWラボ代表
非営利団体コードモノミカタ代表理事

井桁 容子 氏



保育におけるまなざしの重要性

今回、頂いたタイトル「まなざしが保育を高める」ですが、私が最初に出した本が『「ていねいなまなざし」でみる乳幼児保育』という本なんです。その本を書くにあたって、昔から子ども達何だかつらい思いをしているな、この子ってこういう子だったんだということが、よく見えてきました。そして保育が辛いとか、保護者とうまく意思疎通が出来ていないと思う時にも、よく見ることで、自分が見落としていたり、気づかないままになっていたりするものが、見えてきます。見方によって物事は変わるんだということ、自分の体験を通して感じました。しかし、「まなざし」は、その人の過去の経験や思いに影響されるため、保育者は自らの視点を見直すことが重要です。一人一人が、子どもや保護者、同僚をどう見ているか、まずはそこに気づくことが大事だと思います。正解はないです。そして思い込んでしまったら一筋という脳の癖もあるということに気づくことが、すごく重要だと私は思っています。

困った子ども・保護者が多い？

昔から、「今時の親は」「困った子が増えた」と保育者から聞こえてきます。本当に困った子ども、保護者が多いのかなと私は疑問に思います。

NHKの育児情報番組では、教育学者の川田学氏とともに視聴者との交流を通じて、お父さん達の本音や思いを語る機会がありました。すごく面白い内容になり、番組始まって以来の2週連続放送になりました。

お父さんやお母さんは、みんな一生懸命やろうと思ってるんです。でも、「夫が理解してくれない」と感じるお母さんの相談も多く、自分の気持ちを相手に分かりやすく伝えることを提案しています。お父さんは、妻の妊娠中・産後の睡眠不足を理解することが大切だと知らせています。特に、夜間の授乳を父親が担うことで母親が休息を取りやすくなり、家庭内のストレスや産後クライシスもうまく乗り越えられ、そういう配慮があると困った親にならないで済むかもしれません。困った親なのか、困っている親なのか…そういう見方が支援として大事ではないでしょうか。

「困った子ども」「今どきの親は」というふうに捉えることはあんまり良い状態ではないと思います。保育者の中に、処理流動性(何も考えずに思った通りに物事が進むこと)を好む保育者が増えていないか、振り返らないといけません。

保育園等で、決まった時間に食べて、決まった時間に寝て、食べて欲しい量をちゃんと食べて、そして誰とも喧嘩をせずにトラブルを起こさないお子さんが良いと思いますか？0歳からそんなことあり得ると思いますか？子どもは予測不可能な出来事に対処する能力を育む必要があるため、ただ言われたことを守るのではなく、自ら考えたり感じたりすることが大切です。

大人達の子どもの時代から今の子育て、保育、そして未来を考える

大人達の子どもの時代と現在の子育てや保育について考察すると、大人が子どもに過保護になりやすい背景が見えてきます。戦争を経験した世代は物の大切さを学び、子どもに苦勞をさせたくない思いから過剰な配慮をする傾向があります。そして、高度成長期には「努力すれば夢は叶う」との思いがありました。しかし、バブル崩壊後、IT革命の影響を受けて、私達は先行き不透明なVUCA時代に突入しています。以前対談した医学者の養老孟司氏は、「大きな変化がなければ社会は変わらない」と話されました。日本は戦争や震災等に遭い、その復興のために、人はつながり合わないといけない、そしてみんな一緒という集団主義がその当時ありました。その名残りが、まだ保育や教育現場に残っています。昔からずっとこうやってきたという感覚は危険です。未来を見据えて、昔のままということに、疑問を持たないといけないと思います。

一斉保育は、子どもを思い通りにさせようとする、つらい仕事です。人はやりたいことには自然に努力しますが、やりたくないことの強制はかえって自信をなくします。保育者として大事な子どもへの気遣いよりも先輩達に気を遣って、自分がどんどん萎縮していく、そういう状態に若い保育者はなっていないませんか？これは、小さい頃から周りの空気を読んで、みんなと同じことができないと駄目と言われ続けた結果、若い保育者が潰れやすい状態なのです。

さらに若者や子育て世代に、現代の強い同調圧力が見られ、少数意見を排除する傾向が強く、個々のコミュニケーション能力を低下させていると思います。保育や教育の未来について考える際には、過去の方法を単に繰り返すのではなく、歴史の反省が求められます。

これからの時代

～多様性と主体性の中のつながり～

生物学者の中村桂子氏と対談した時、人はそれぞれ異なる特性を持つ不完全な存在であり、「誰もがへんてこりん」であると言われました。この多様性を子ども達に伝えることで、生き生きのびのびするんじゃないでしょうか。保育者は、みんな違っていいんだということを、当たり前のように知っていないといけないですね。

教育心理学者の遠藤利彦氏は、真の自立は必ずしも一人で全てを行うことではなく「必要な時に助けを求めること」だと言います。逆境に直面した時に他者からの助けを受けた経験が、しなやかな対応力を育みます。一方で、一人で全てを背負う人は、精神的に弱いそうです。心の強さやレジリエンスの育成において、受け止められた人の方がしなやかに物事を考えられます。

これからの時代に求められる能力として、主体性の重要性があげられます。主体性とは、自分で課題を見つけ行動することであり、自分のやりたいことに挑むことです。今の社会では、自分の課題を見つけ挑戦することが求められてきます。

保育者の言葉が子ども達に与える影響は大きく、保育

者が挑戦を応援する姿勢を示すことで、子ども達は自らの目標に向かって努力することを学びます。主体性を育むためには、保育者が子どもの努力を尊重し、個々のこだわりを大切にすることが大事です。その結果、仲間同士の絆を強めることにもつながります。

これからはつながりの時代だと心理学者も社会学者もIT関係の人たちも様々な形で言われています。つながりの時代というものは、違っているからつながる必要があるんです。

例えば、慎重な性格の子どもと行動的な子どもを考えると、それぞれの特性がありますよね。慎重な子どもは危険を回避する一方、行動的な子どもは挑戦することで生存の可能性を高めることができます。保護者は慎重な子どもの特性を無視し、行動的な子どもと同じように育てようとする傾向があります。しかし「子どもの個性を受け入れ、育むこと」が大事です。異なる性格の子ども達が共存することで、より質の高い教育や支援が可能となります。保育現場においては、特定の性格や特性を認め、個々の特性の重要性を適切に伝えることが求められています。

人間の本質 ～生る(なる)力と子どもの権利～

私は、一斉保育というやり方に納得いかないものがいっぱいありました。一番影響を受けたのは中村氏のおっしゃる生物学的な人間理解です。あらゆる生き物は全部時間をかけて育つということです。人間もです。早く課題をクリアすることは、人間の本質を無視することになります。ですから集団一斉保育が人間の育成に反すると言えます。

乳幼児期には友達との関わりを通じて社会性を育むことが重要であり、自己主張と他者理解のバランスをとることが求められています。「ごめんね」「いいよ」の表面的な解決策ではなく、深い関わりが子どもの成長には不可欠であり、保育は生き物を育てる、育つのを応援する仕事です。私達は長い目で見て、その人がいい人生だったと思えるような始まりを保障する仕事をしているのであって、大人の言うことを聞く子を育てるのではありません。

中村氏は、「生る(なる)」ことの重要性を認識することで、自分の生命に潜む力への信頼する力が強まると言われました。例えば、みかんの木はみかんを、りんごの木はりんごを実らせるように、人間も、人間の脳幹や脊髄には、自分自身に生る要素が備わっており、命に関する環境を整えば、その特性に応じた成長が促されます。したがって、それがより良い状態で育っていく応援をすることが大事ということです。支援者の好みのタイプに育てるものではありません。その子の特性を尊重し、最適な育成環境を提供することが重要であり、その為に保育者自身の保育観や教育観を振り返って頂けたらと思います。

「子どもにとって」と「子どものために」行う行動の違いについては、重要な違いがあります。具体的には、「子どもにとって」は、子どもの権利です。この子にとって今何が必要なのか、水が欲しいのか、睡眠なのか、温かいハグなのか、これが子どもにとっての権利です。

反対に、「子どものために」は、親や大人が自己満足を追求する行動を指し、子ども自身の気持ちやニーズを無視して、好きなおもちゃを与えたり遊園地に連れて行ったりするということです。このような観点から、専門家は子どもの立場にたって本当の権利を尊重する必要があると思います。

人間だけに残る力…読解力(深読)・共感性

人間は特に読解力と共感性の面で特有の力を持っています。生物学者や教育者だけでなく、ロボット工学者も人間を徹底的に研究しています。AIが進化し、シンギュラリティ時代に突入する中で、人間は新幹線とかけっこの競争をしないのと同じように、人間は人間らしさで勝負をする時なのです。

『猫のピート』という絵本では、主人公のピートがお気に入りの白い新品の靴で出かけます。出かけた先で白い靴が様々な色に染まってしまう。ところがピートは泣くどころか、それを前向きに捉えて人生を楽しむ様子が描かれています。しかし、泣くことをネガティブに捉えている保育者は「ピートは泣かないよ」と、子どもに何があっても泣かないことが良いと教えます。

困った時に泣いて訴えなかったらどうやって自分の状態を伝えるんですか？泣かないのがいいんじゃないですよね。表現の方法が豊かになれば泣かずに済むことがあります。経験を通して自分の感情を豊かな言葉やボディランゲージでも何でもいいから、人に伝えたい、伝えたらわかってもらえる、そういう経験を積んでコミュニケーション力っていうのは上がっていきます。

「何故なんだろう」と疑問を持つことが重要

保育園に、左右異なる靴を履いた子どもが登園してきた時、大人たちはその理由を考えるべきです。私は、「ニューファッションですね」と声をかけました。この時に「左右間違ってるね、明日はちゃんと履いてきてね」と言っていたなら、傍にいる保護者は「先生に怒られるから、ちゃんとしなさい」と言ったと思います。しかし、赤ちゃんから、子どもは正しさや違和感を理解する力を持っています。この子は「なぜ同じ靴を履かなければならないのか」と疑問を持ち、自分で考えてこの行動になったのです。主体性の学びになっているわけです。このことを、保護者に伝え、理解や応援に繋がりました。これが子どもの成長にとって重要です。手間暇や時間をかけてやってみて分かっていくことに意味があり、大事だということに気づくと、保育の支援も違っていきますね。

子どもの権利とは

人間はみんな異なる力を持っているということは、心理学者ガードナーの多重知能理論に表現されています。絶対音感のある人は音楽的知能が高い人です。遺伝子レベルなので、音楽的な知能の弱い人は、頑張ってもなかなか音をとるのは難しいです。

気質は生まれ持ったもの、性格は気質+環境によって出



来上がっていくものです。0、1、2歳児の遊びを見ると、物の仕組みが好きの子、色で物を選ぶ子、人の顔ばかり見ている子など色々います。人にちょっかいを出す子は、对人的知能が高くなるエキスを持っているかもしれません。トラブルが多い人ほど人に興味があります。だからこそ色々手を出すということなので、相手の思いを分かろうとする姿勢や自分の思いを表現するための手伝いをしていけば、問題じゃなくなるんですね。それぞれが別々に持っているものを生かし合うことを私達が保障していくのです。それを見極める力が保育者として勝負するところともいえますね。

子どもの権利とは、「やりたいことができる」「してほしくないことはやめてと言ったら分かってもらえる」「してほしいと言ったらやってもらえる」と、子ども自身が感じていることです。「何でも好きにやりなさい」じゃない。子どもがここは安全だと思えることを保障すれば、子どもの権利は満たされているということになるんです。

子どもまんなかの保育をしたら、「わがままになってしまふ」「忙しくて無理」「集団保育なのに」というのは、子どもの権利や子ども基本法の理解が不十分ということです。一人一人が満たされていると、「あの人のことも、この人のことも、自分も大事」って育つんです。だから世界中で、子どもの権利は社会が豊かになるために重要だと言っているわけです。

アタッチメントの保障

アタッチメントとスキンシップを間違えている保育者がいっぱいいます。一対一が大事だからと一人の子だけに食べさせて、あとの9人はお腹が空いていても待っていないさいってなると9人の子ども達のアタッチメントはどうなりますか。その子ども達は明らかにお腹が空いているのに、保育者は「待つ力が育って見通しがつくようになった、育っている姿だ」と言うのです。普通の大人は、誰かにご飯を食べさせていて、他の子が「お腹空いた」と言ったら、「一緒に食べよう」と言いますよ。

一対一が大事なんじゃないです。ネガティブな状態の時にちゃんと満たされることが、心が育つ基本です。大事なことは安心。私が長年一緒にいる遠藤氏も「それがないと、人間は心が育たないとアタッチメントの研究で証明されている。自分自身も育たないし社会性も育ちません」と、おっしゃいます。

人は、安心な場所から色々やりたいという気持ちが育ちます。色々やったら、疲れたりお腹が空いたり、怖い思いをしたり不安になったりします。すると基地(安全な場所)に避難して、安心感を取り戻して、もう1回頑張って次のチャレンジに行きます。

困った時に「あの人は絶対に助けに来てくれる、助言してくれる、自分を守ってくれる」と思える人はチャレンジできるんです。でも、いつも「一人で頑張りなさい」と誰も助けてくれなかった経験のある人は、アタッチメントが保障されてないので、チャレンジできません。今、日本の若者達が海外に行きたがらない、あるいは「困った時に助けてもらえる温かい場所が他にあるんじゃないか」と海外に出て行く若者もいるそうです。「日本は温かくて素敵な国だ、困った時はみんなで助け合えば何とかなるんだ」という経験をさせることが、保育や教育の中で今、本当に大事なんです。

子どもにとって安心できる園に

園に子どもを慣れさせるという保育では、園は変わらなくていいですね。子どもが園や保育所の雰囲気や丸ごと受け止めなさいということになります。園に慣れない子じゃなくて、園で安心できない子はいないかな?と、不安そうな人を満たしていくことに十分に気を付けて、子ども達がここは居心地のいい場所だと答えを出せば、保護者からも自然と信頼を得られます。困った子どもではなくて、困っている子どもという捉え方をしていく中に、共感性が生まれるでしょう。

学校に行きたいけど行けないという状態の人は結構多いですね。保育の中で安心を得たら次の集団も安心できるかもしれないけれど、大人達の指示通りに生きなきゃいけないと幼児期に思い知った子は、学校に行っても辛いことばかりになるんじゃないでしょうか。

子どもが次の集団(小学校など)に入るとき、私は保護者に、先生の指示を鵜呑みにする子ではなく、意見の違いがあれば「それは好きじゃないんだ。先生、困っています。」と言え話を聞いてもらえるんだと思わせてほしいと伝えることにしています。

ある卒園児が高校生になった時「私達子どもの気持ちを本当に分かってくれたのは、3歳までいたナースリーの先生達だけだった」と言ったそうです。子ども達は、自分の思いに耳も気持ちも傾けて聞いてくれる人のことは忘れません。それが信頼の軸になるんです。保育園は、子ども達が出会う最初の社会です。子どもは、いろんな大人に出会って傷つくことがあっても、幼い頃に確かな大人もいたんだと思えれば、大きく世の中を恨まないで済むんじゃないでしょうか。

保育のプロだからこそ

思い込みや決め付け、馴れ合い、妥協、勝手なルールを作って役割を固定化し、他者に関心が広がらないということが、いま問題になっています。自己批判・謙虚さを保つためには、アンラーン(学び直し)が必要です。上書き保存ではなく、アップデート。そして、より良くなるためには、年齢や経験を超えて対話ができる関係性が重要です。ベテランは「あなたはどんなことを学んできて、今は何を尊重してそうしたの?」と聞ける先輩でありたいし、若い先生は、未熟だと自己嫌悪に陥るのではなく、今の自分だけが見えていることもあると思って対話する。対話はキャッチボールですから、相手の状況や能力に合わせてやり取りをしながら、お互いにだんだん上がっていきます。対話によって子ども観が豊かになっていくのです。

人間は子ども時代がすごく長くできています。これはいっぱい失敗して複雑にいろんなことを理解するためです。保育者の処理流暢性で、流れるように1日が終わることを目指すと、子どもでいる意味がありません。先を急いでスムーズにいくことが頭の中に常にある人は、回り道が無駄なことに見えてくるんです。すると子どもの心が育ちにぐくなります。

認知心理学者の佐伯胖氏は「子ども達は言わないけど、行為や表情で表現してるメッセージだと捉えることが大事なんだよ」とおっしゃいました。子どもの行為や表情を無駄な行為だと思うと、メッセージには見えない。私達はプロだから、「そこに意味があるんです」って言える人でありたいですね。

お母さんが食べた物や体調などによる羊水の味の変化

で、胎児の口の中では食事の訓練が進んでいます。ですから、保育者が「口を開けて、もぐもぐよ」と言ったから覚えるということはありません。味覚は胎児の頃に刺激されているし、脊髄と脳幹でその人になるように組み込まれています。組み込まれていないのは大脳皮質だけ。学習する部分だけ未熟な状態で、生まれた途端に、周りにあるものを受け入れていきます。だから、赤ちゃんの時に関わる環境や人は大変重要なのです。保育者は、お医者さんぐらい科学的な知識を持った上で、赤ちゃんを人として信頼する、そういうプロとして関わるのが大事なんです。

発達のカギは、気質と環境の“適合の良さ”

発達の鍵は気質と環境の“適合の良さ”と、遠藤氏がおっしゃいました。気質というのは、怒りん坊とか神経質とか、元々持っているもの。怒りそうになったら「お友達はオモチャを取ったんじゃないよ、よく見て。これを片付けようと思っただけみたいよ」と言われた子は、同じ場面で「よく見て」と言われると、怒る前に自分を抑えることができるようになります。気質は怒りん坊でも、そばにいる大人が共感的で丁寧に関わっていけば発達していくということです。

その子に合った関わりを考える人と出会えば、子どもはより良く生きられます。だから、子どもは幼ければ幼いほどこういうことをちゃんと知っている保育者に出会いたいんです。そうすれば、お父さんやお母さんも成長していきます。

子どもが「嫌」と言った時、「嫌じゃないでしょ」って言われると、「嫌だー!」となります。「嫌だ」って言ったら、「何が? どうして?」と聞けばいい。すると「あのね」ってなるんです。「嫌だ」と言っても、分かってもらえると思えば騒がなくなります。つまりイヤイヤ期というのは、そばにいる大人によって変わるということです。

ある1歳児の連絡帳に「お宅のお子さんは、いつまでたっても靴を持ったまま立っていました」と書いてあったんです。これが1行目に出てくるということは、「お子さんが自分で靴を履けるようにしていますか」という問いですね。それを読んだ保護者は、子どもが自分でしようとしなければずっと立たされていたことを察してしまいました。

3歳までの人格の基礎ができる時に、靴を履けないと認めてもらえない、困っているのに助けてもらえないという心はいつ修正されるのか。そういう思いをした子は、人間を信頼するでしょうか。

見た目の出来栄えや、早く一人でできるようにすることではなく、やりたいという意欲が育っていることが大事です。でも保育者は、処理流暢性で早く手の掛からない子どもを増やそうとしてしまいます。保育者が「できないことがあったら言ってね」と言えば、子どもは「自分でやるよ」とか「ここだけできないからやって」とか言えるんです。そして、そうされている友達を見た子は、友達が困っていたら当たり前のように助けるんです。

「感じる」を大切にすると学ぶ意欲につながる

散歩の途中、ある子が泣いてしゃがんで動かなくなりました。すると、一つ年上の子が迎えに行って「嫌なの? 行かないの? ここにいるの? じゃ、私もいるね」って座ってくれました。そしたら、泣いていた子は1分も経たないうちに「行こう」と立ち上がって手を繋いで来たのです。

この話を保護者会で使ったんです。年上の子のお母さ

んが「うちの子は本当に気が強いんです。先生達が育ててくれた優しい姿です」と言うので、私は「お子さんの口調はお母さんと同じでしたよ」と伝えたんです。その子のお母さんが、靴箱で靴を出したことに怒ったお子さんに向かって「ごめんね、自分でやりたかったの? じゃあ戻すね」と言った時の口調と同じだったと説明しました。それを聞いて、優しくされたら優しくできるんだと保護者がみんなで涙しました。子どもを通して大人も育っていきます。私達保育に関わる人間が、子どもから学べたという感動を保護者にどのぐらい伝えられるか、これも支援で大事なことです。私達は、子どもからもうちょっと学ぶべきです。

「やわらかい」と言えず「やらかい」としか言えなかった5歳児の子が、ある日「この果物、柔らかくなったら食べられるよ」とママが言うのと「やわらかく」なったら」ってサラッと言えたんです。そしたら「間違った言い方のほうがかわいかったのに」とママは言いました。すると「間違えた言い方教えて」と言って泣き出しました。ママが「やわらかい」と言っても、この子は「やわらかい」しか言えない。これは、感じる事がどれだけ身に付きやすいかということの証明であると思ったんです。

頭で覚えたのではなく、柔らかさを「感じて」覚えた言葉は自然と身につきます。保育も感じて理解する保育に変えないといけません。「感じる」を大切にすることが学ぶ意欲につながるということなんですね。

子どもは人間として見事な存在

自分の思いを分かってもらえると、私はこのままでいいんだと思えます。そこから他の人の気持ちも分かっていくコミュニケーション力が育つのです。親以外の人が「あなたのここが素敵だと思ってるよ。あなたには、あなたらしい力が発揮できる場所があるね」と伝えるのが今の支援で最も大事で、そこにお父さんお母さんが気づければ、子育てはおのずと楽しくなります。そして、「できないことはあの子に教えてもらって、あなたは絵を描いてあげればいいじゃない。お友達同士で最強だね」というような関係性をつくっていく。これが、今求められているつながりのある保育です。

みなさんは日常的に肯定的な表現が多いですか。否定的な言葉が多いですか。否定的な言葉の多い人は「私は不幸だ」と言っている人が多く、肯定的な言葉が多い人は「私は幸せだ」と言っている人が多いそうです。しかも、これらはどちらも人にうつる。肯定的な言葉が多い人の真似をしてみると幸せはうつってくるそうです。

思考に気をつけなさい、それはいつか言葉になるから
言葉に気をつけなさい、それはいつか行動になるから
行動に気をつけなさい、それはいつか習慣になるから
習慣に気をつけなさい、それはいつか性格になるから
性格に気をつけなさい、それはいつか運命になるから

というマザーテレサの言葉は、子どもを人間としてちゃんと認める人であるかどうか全てに影響してくることなのだと思います。ですから、保育者や教師が子どもは人間として見事な存在であると心の底から思えば、保育はおのずと良くなっていきます。園全体、地域全体がそんなふうに思える大人だらけだったら、もう理屈抜きにいろんなことが豊かな育ちとなって保障されると思います。



安心・安全な保育活動に向けた取り組み



2023年4月1日に施行された省令改正により、保育所等を含む児童福祉施設等において、業務継続計画（Business Continuity Plan、以下 BCP）の策定、研修・訓練の実施、定期的なBCPの見直しが努力義務化されました。BCPとは、震災等の災害や緊急事態が発生した際に備えて園児と職員の安全を確保し、継続的に保育を実施するための計画です。能登半島地震を経験し危機管理に対する意識が高まりつつあり、各保育施設でも訓練のあり方や計画の見直しやマニュアル作成など、今まで以上に危機感をもって取り組んでいることと思います。また、「自然災害」はいつどこで起こるかわからないだけに備蓄品や防災用品の見直しや準備をしっかりとっておきたいものですね。様々なアイデアや知恵が命を守ることにつながりますので、今回は、いざという時にご家庭でも役立つ裏技をご紹介します!

簡易トイレ

大地震などの後は、断水のため、トイレが使えないことがあります。

そんな時に重宝するのが、簡易トイレの存在です。身近な段ボールとビニール袋だけで簡単に作れます。

☆準備するもの☆

- ・段ボール・新聞
- ・ビニール袋・ガムテープ



穴の中に新聞紙を細かく切り裂いて入れたりペットシートを敷いたりすると**トイレの消臭対策にもなります。**



簡易トイレの作り方は、ガムテープで閉じた空段ボールに直径20cm程度の穴を開けその中にビニール袋を設置します。袋の中には、切り裂いた新聞紙を敷くと◎。用を足したら、ビニール袋を外し、しっかり結んでゴミ箱へ。再び使うときは、新たなビニール袋を設置することで何度も使えます。

ペットボトルランタン

懐中電灯とペットボトルを組み合わせることで、広範囲を照らせるランタンに早変わり!! この方法を覚えておけば停電になってしまった時にランタンがなくても安心です。

☆準備するもの☆

- ・水が入った500mlペットボトル
- ・懐中電灯



簡易蛇口

- ①水を入れたペットボトルにキリなどで穴を開けます。
 - ②フタを開めると穴から水が漏れなくなります。
 - ③使う時はフタを緩めると、水が出てきます。
- これなら1人でも手を洗うことができて便利です。

☆準備するもの☆

- ・ペットボトル（大きさは自由）
- ・キリ等

穴を開けます



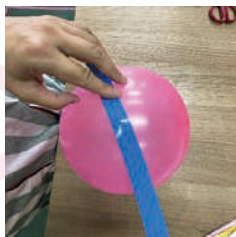
※参考文献※ 自衛隊防災BOOK2（2019年10月10日発行）

風船ボールを作ろう

風船を膨らまして、対角線にビニールテープを貼るだけでポンポンとはじけるボールに変身!!

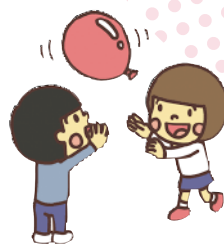
準備するもの

- 風船
- ビニールテープ
- はさみ



- ① 風船を膨らまします。
- ② ビニールテープを対角線に貼ります。
- ③ 風船ボールのできあがり!!

家の中で
投げて遊んでも
安全です★



新聞遊びも取り入れて楽し
むとより遊びが盛り上が
ります★

新聞紙で輪っかを作って
バスケット。新聞バット
を用意して野球ごっこな
ど、イメージも膨らみます!

バランスボールみたいに
乗っても割れないよ～

ポンポン跳ねるよ!
追いかっこ
おもしろいな



「会長のひとこと」 一井桁先生の講演を聞いてー

「ていねいな保育」を踏まえて「まなざしが保育を高める」というお話に感動しました。もう何度も聞いていますが、毎回感動しています。「目の前にいる子ども達の幸せはあなたが担っているのよ」と情熱的に語ってくださいます。

子どもに対する固定的な見方・保育を見直して進歩・発展させていく研究的実践者としての構え・方針・チームづくりが問われています。

今回特に考えさせられたのは、アタッチメントのお話で以下の部分です。

「一対一が大事なんじゃないです。ネガティブな状態の時にちゃんと満たされることが、心が育つ基本です。大事なことは安心。」

という箇所です。このことを担任同士や保育教諭のチームで確認できますか?

子どもの心の育ちは目には見えません。あなたの園ではどのように確認されていますか?アタッチメントが大事にされている教育・保育は素晴らしい!共に伝えあいましょう!

富山県保育連絡協議会 会長 小島 伸也

編集 後記

少子化が進み、核家族化・世帯数減少に加え家族相互に助け合う力が低下する世の中となりました。保護者の子育ての悩み、家族や地域からの孤立が児童学童をはじめ、子どもの命を脅かすことが深刻な課題となっています。ますますあらゆる世代で、子ども達を見守り安心してチャレンジしたり自分自身で乗り越えたりする力を育てることが大切だと感じます。そんな中、今年度の子育てフォーラムには保育士等や民生委員、主任児童委員などたくさんの方々に参加してくださいました。「こどもまんなか社会」を実現し、切れ目なく育ちを支えていく支援を大事にしていきたいですね。最後のページには風船ボールの作り方が紹介されています。親子で楽しんでみてください。フォーラムに参加いただいた皆様、出演していただいた皆様、ありがとうございました。

連絡先

「保育の出前」についてのお問合せは、
お近くの保育所(園)・認定こども園または、
県保育連絡協議会(076-431-6727)へ。

発行：富山県保育連絡協議会
〒930-0094 富山市安住町5番21号サンシップとやま内
TEL 076-431-6727 FAX 076-432-6064
https://toyama-hokyo.jp/

発行日：令和7年3月